

勝間田焼復活への道 II

(勝間田焼復活会活動報告)



勝間田焼復活会

1. はじめに

現在の岡山県勝田郡勝央町地域で中世に栄えた勝間田焼を復活させるため、勝間田焼復活会を結成し、約 10 年間活動しました。その結果、初期の目的はほぼ達成されました。しかし、会員の高齢化に伴い作業が困難になり、2024 年末に解散しました。これまで活動を続けられたのも、勝央町および地域の皆様のご支援の賜物ですので、ここに活動経過と成果をご報告いたします。

2. 勝間田焼とは

勝間田焼は、平安時代末から鎌倉時代にかけて美作地域一帯で使用された焼き物で、勝間田盆地の山間部が主な生産地です。勝間田焼は須恵器の流れをくむ青灰色で非常に硬質な焼き物であり、椀や小皿などの食器類から、こね鉢などの調理具、壺や甕などの貯蔵具に至るまで、多様な製品が出土しています。当時、美作地域を中心に山陰地域まで広域に流通していました。

しかし、備前焼の隆盛と共に鎌倉時代末期には衰退し、記録等にも残っていないことから、幻の陶器と称されています。現在の調査によって、50 基余りの窯跡が確認されています。



勝間田焼大甕（勝央町教育委員会）



勝間田焼の食器類（勝央町教育委員会）

主な特徴は、還元冷まし焼成（薪に対して酸素が少ない焼き方で最後に薪を多くべする）による青灰色の色合いです。甕などには叩き技法（甕の内側に重くて丸いものを当て、表から格子模様の板で叩いて締める）による格子模様が見られます。また、椀や小皿には優れたろくろ技術が用いられており、薄くて優美な形状が特徴です。さらに、切り糸で切ったままの波模様なども見受けられます。

3. 勝間田焼復活会の創作活動（グループ内の氏名は五十音順）

(1) 勝間田焼復活会の結成

2013 年（平成 25 年）12 月、竹内眞介と矢野清和の話から、それぞれの友人や公募で参加した 8 人の会員（奥田福泰、奥西文寛、河野吉雄、竹内眞介、花房文雄、宮崎薫、万代祐三、矢野清和）と 5 人の賛助会員で、勝間田焼復活会を結成しました。

(2) 窯について



ノースビレッジの炭焼き窯を、勝央美術文学館の野村英子氏が備前焼の技術で改築した穴窯を借用することとしました。

この窯は、勝間田焼の青灰色を念じて「青勝窯」と名付けました。

←初代青勝窯

(3) 粘土について

粘土については、数年前に岡山美作道が建設される際、黒土地区の水田の底に勝間田焼の粘土を採掘した跡が発見され、考古学的に研究発表されました。さらに、橋桁工事で出土した粘土が町民および備前陶芸家に提供されました。町内会員が取得していた粘土を使用することとしました。後年、町内の備前焼陶芸家である水島清一氏から同様の粘土を大量に頂きました。

なお、2015 年に末菅満江氏の紹介で、福吉地区の大谷氏の山から白色粘土を頂きました。

(4) 薪について

薪は、石田製材所から提供された大量の古材や、安価に販売されていた製材端材を利用することになりました。農業用軽トラとチェーンソーが出番となり、田熊の山中で提供された松材を雪中に引き出しました。

後年、幸か不幸か松枯れが多く、ノースビレッジ、美作カントリー、高齢者事業団、太平台、廣幡公宏氏、下山慎悟氏など、多数の地域の方々に提供いただきました。

2013 年 12 月 2 日に合同作業で薪割りを開始しました。薪割り機は、きのこの森グループから借用しました。

2014 年(平成 26 年)の活動

(1)勝間田焼に関する活動

4 月 備前焼人間国宝の伊勢崎淳氏を迎え、「古の職人の勝間田焼きは美しい。この美しさを実直に再現させてはどうか。」とのアドバイスを頂きました。勝央町長の水嶋淳治氏、教育長の竹久保氏にもご出席いただきました。【山陽新聞掲載】



人間国宝 伊勢崎淳氏(左から5人目)を迎えて

6 月 勝央町教育委員会の団正雄氏の指導で、勝間田焼窯跡と町管理の出土品の見学を行いました。



10月 初代の窯で初めての窯焚きを行いました。焼成温度は1200℃で、作品は大壺、花器、食器類でした。窯出しを行ったところ、備前焼に近い焼き上がりとなりました。



初代青勝窯の初窯だし

23 美作・真庭 2014年(平成26年)10月28日 火曜日

「勝間田焼」初の窯出し

勝間田焼の町文化祭で展示へ

平安末期から鎌倉期に勝間田焼の窯出しを行った。15〜18日に最高約1200度で焼いた作品。陶芸家矢野清和さん(68)・同町上香山の窯に運び出した。勝間田焼は、器肌

施された格子柄や青灰色が特徴。今回は矢野さんが制作したつぼなど数点を焼いたが、茶褐色のような色で青灰色にはならなかった。矢野さんは「初めてなので60点ぐらいの出来。さらに工夫を重ねたい」と話した。

窯出した作品は他のメンバーが作った食器、花器なども含め、11月8、9日の町文化祭で展示する予定。須恵器の流れをくむ勝間田焼は約900年前、勝間田の勝間田盆地一帯で生産が始まり100〜200年ほど作られたとされる。最盛期には美作や山陰地方に製品が流通するなどしたが、鎌倉時代に消滅した。

(近藤秀孝)

作州ワイド版

みまさか・まにわ

勝間田焼として窯出したつぼ(手前左から二つ目)など

山陽新聞に掲載されました(2014年10月28日)

通年 薪割り作業は、約15回行いました。

2015 年(平成 27 年)の活動

(1)勝間田焼に関する活動

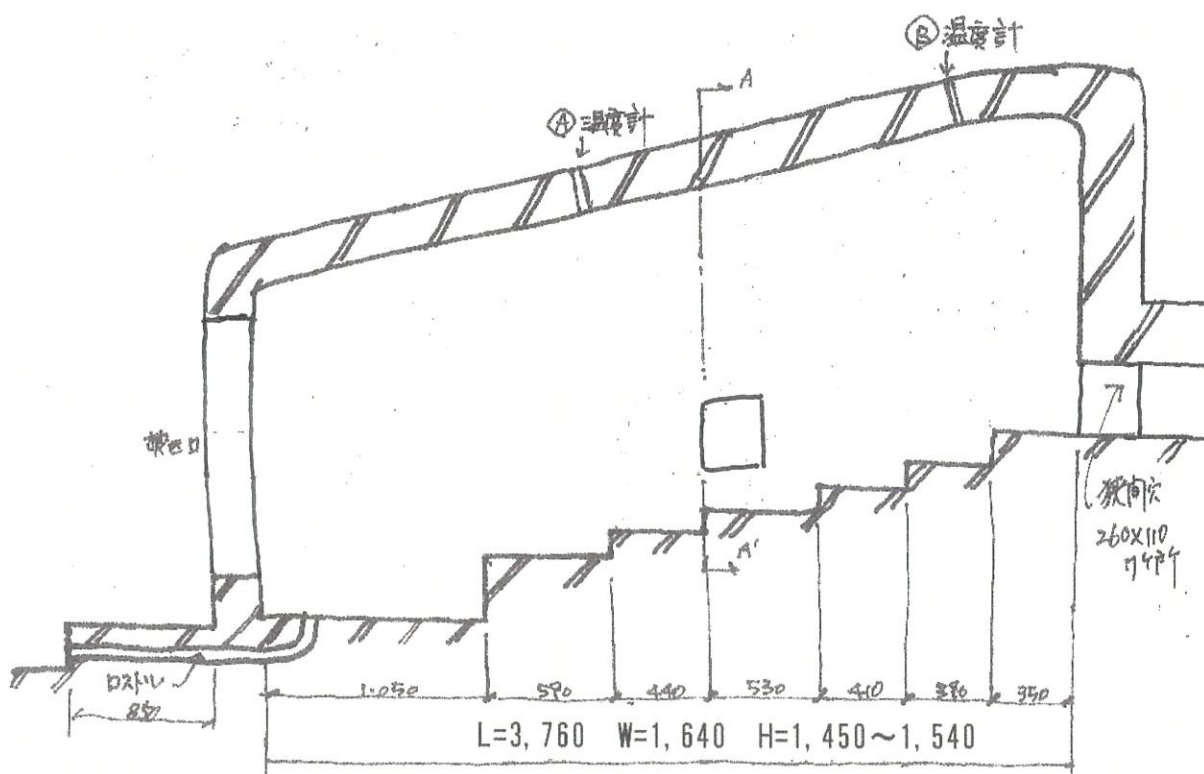
①陶芸窯の見学

3 月に備前焼の伊勢崎淳氏、還元冷まし焼成を採用している的野智士氏、好本敦郎氏の窯を見学しました。好本氏の作品は、輝くような青灰色で素晴らしかったです。

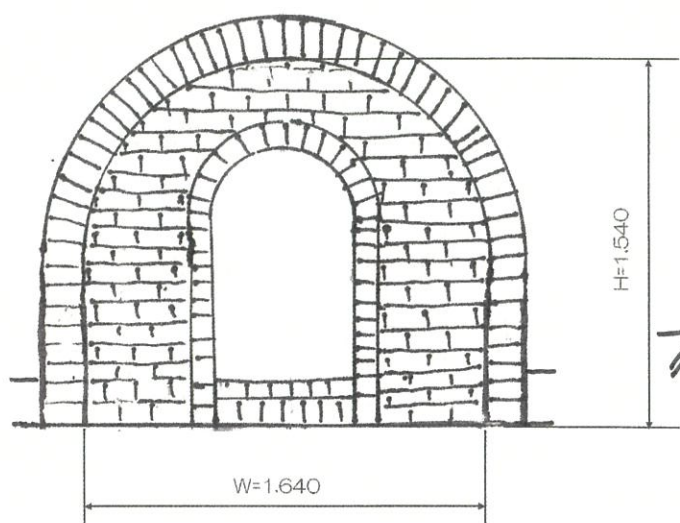
②二代目青勝窯の築窯について検討

ノースビレッジ内が車の乗り入れ禁止となったため、二代目青勝窯を会員の資金で建設することにしました。後に、勝央町特色ある地域づくり事業の助成を得ました。

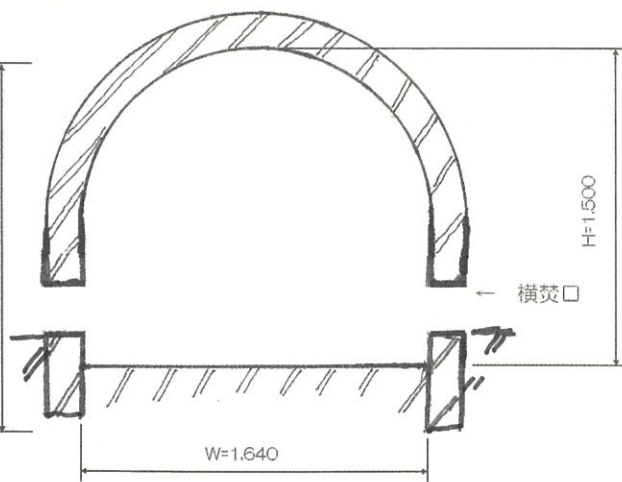
窯の設計は各々提案し、総合的に決定しました。大きさは内幅 1.64m、奥行き 3.76m、内高 1.45m~1.54m、傾斜 18 度の半胴型、半地下式穴窯としました。会員が収集した考古学資料を参考にしました。場所は鳥家健二氏の紹介で、ノースビレッジ西北端の遊休地を勝央町から借用いたしました。絶好の傾斜地です。



2代目青勝窯の横断面図



2代目青勝窯の正面図



2代目青勝窯の横焚き口の断面図

③二代目青勝窯の築窯作業

4月9日全員で着工しました。草刈機、チェーンソー、その他の道具を持ち寄り、山掃除を行いました。花房のユンボを矢野が運転し、整地を行いました。レンガなどの部材は備前で購入し、主に自力で搬入しました。

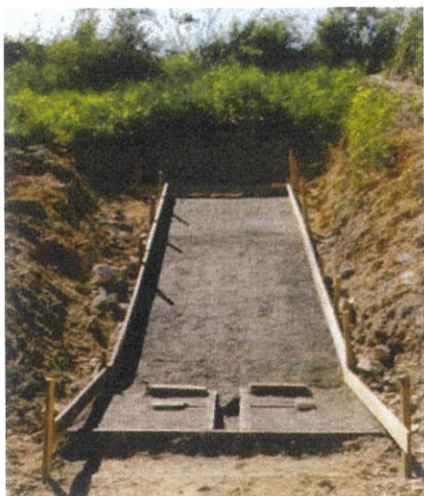
全員で築窯を行い、耐火レンガ一層、その上に赤土を塗って二層壁としました。レンガ切断機などの左官道具は持ち寄りました。



草刈り作業



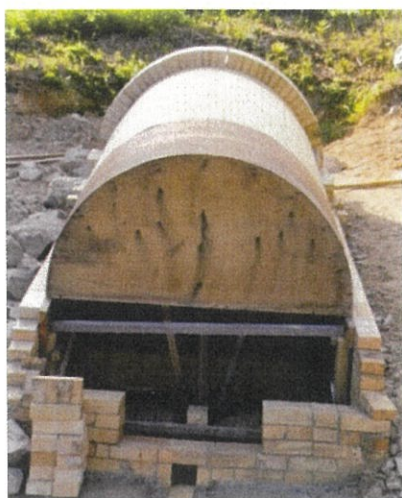
← ユンボでの整地作業



基礎工事



レンガ工事



木枠工事



アーチ工事

10月 建屋建設を着手しました。この頃、泉水良通が会員となりました。町内のメンバーが集中的に建設を行いました。建築部材(木材)は石田製材所から大量に無償提供いただきました。薪はノースビレッジや美作カントリーから大量の松材を頂きました。2台の軽トラと会員の親戚のダンプでピストン運搬しました。



建屋の工事

そして12月23日に二代目青勝窯が完成しました。

1



完成した建屋

通年 本年の合同作業は、約40回行いました。

(2)その他の関連行事

9月 勝央町街道祭に出展しました。



勝央町街道祭の展示

11月 勝央町文化祭に出展しました。

2016 年(平成 28 年)の活動

(1) 勝間田焼に関する活動

4 月 10 日に竣工式を行いました。勝間田神社の宮司、町長、副町長、議長、教育長にご出席いただきました。



竣工式(平成 28 年 4 月 10 日)

(前列左2人目から竹久教育長、水嶋町長、水嶋宮司、古山副町長)

5 月 新窯の空焚きを行いました。

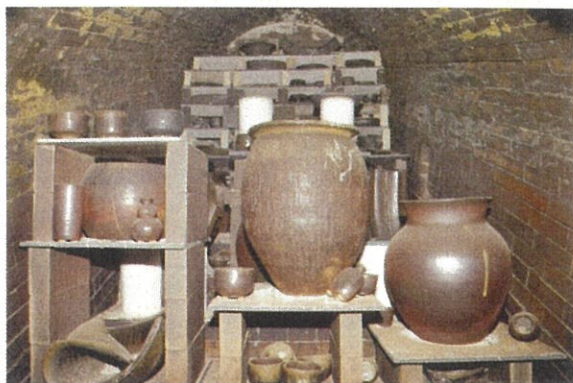
6 月 窯詰めを行い、青勝窯(2 代目)の初窯を焚きました。1000℃前後からなかなか温度が上がらず苦勞しましたが、やっと 1200℃まで上がりました。最後に薪を大量に投入し、密閉して還元冷まし焼成を目指しました。窯出しを行ったところ、中間より後方の小物作品が青灰色を呈し、前方の大物の作品は黒みがかった備前焼風で美しい焼き上がりとなりました。作品には、奥田の創作花器、奥西の食器、河野の大鉢、泉水の狛犬、竹内の練り込み扁壺、花房の食器、宮崎の食器、矢野の大甕・彫塑などがあります。

多くの方々に見学していただき、販売も行いました。左馬湯飲み(初窯で左馬(黒)の文字を象嵌。使用すると中風にならないという縁起物)などは好評でした。

【山陽新聞・津山朝日新聞掲載】



【山陽新聞掲載 2016 年 6 月】



初窯の窯だし



初窯の窯だし

7 月 鳥取で研修を兼ねて慰労会をしました。

中井窯・岩井窯等を見学しました。

通年 巻き割り等の合同作業は、約 15 回行いました。

(2) その他の関連行事

5 月 津山工芸展に入選しました。作品は

「赤と黒」(奥田)、「蛙文三島壺」(河野)、

「勝間田焼習作」(竹内)です。

9 月 街道祭に出展しました。

11 月 文化祭に出展しました。



慰労会(鳥取)

2017 年(平成 29 年)の活動

(1)勝間田焼に関する活動

5 月 2 回目の窯焚きと窯出しを行いました。還元冷まし焼成により、黒色が濃い焼き上がりとなりました。



窯焚き



津山朝日新聞に掲載されました(2017 年 6 月 13 日)



窯だし



シェアスペースでの展示

6 月 勝央町議会の町長行政報告で、特別に勝間田焼復活会の活動が取り上げられました。展示会や町民アンケートが予告されました。

8 月 勝間田焼展示会をシェアスペースで開催しました。【山陽新聞・津山朝日新聞掲載】

通年 薪割り等の合同作業は、約 15 回行いました。

(2)その他の関連行事

5 月 津山工芸展に入選しました。作品は「見つめる」(奥田)、「ホットでほっと」(河野)、「黒きもの」(竹内)、「魚陶」(矢野)です。

9 月 街道祭に出展しました。

11 月 文化祭に出展しました。

2018年(平成30年)の活動

(1) 勝間田焼に関する活動

6月3回目の窯焚きと窯出しを行いました。【山陽新聞掲載】



窯だし(窯の内部)



窯だし作品

6月 勝間田焼復活会展を
勝央美術文学館で開催し
ました。

全陶展岡山支部長の
岡本研作氏にご来訪いた
だきました。

6月 地域おこし協力隊の
佐桑充倫氏の協力で写
真ビデオ「～幻の陶器～
勝間田焼」を製作しました。



6月 写真集「勝間田焼復活 勝間田焼復活会展【山陽新聞・津山朝日新聞掲載】
への道」を出版しました(奥田)。

6月 文化協会50周年記念絵葉書・カレンダー展に入選しました。作品は「勝間田焼 天
神」(竹内)と「幻の格子壺」(矢野)です。

8月 高取保育園の壁画を文化協会と受注しました。デザイン公募を経て、六清窯(矢野)で
焼成し、2020年3月に納入しました。

通年 薪割り等の合同作業は、約15回行いました。

(2) その他の関連行事

9月 岡山県展に入選しました。作品は「パルム ド カツマダ」(竹内)と「格子甕」(矢野)
です。

9月 街道祭に出展しました。

11月 文化祭に出展しました。

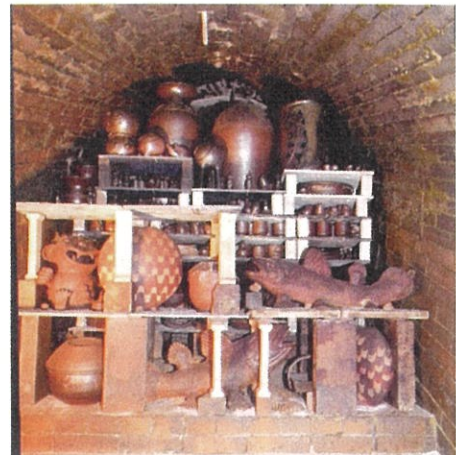
2019 年(令和元年)の活動

(1)勝間田焼に関する活動

10 月 4 回目の窯焚きと窯出しを行いました。【山陽新聞掲載】



窯詰を終わって



窯だし

通年 本年の薪割り等の合同作業は、約 15 回行いました。

(2)その他の関連行事

・津山着物学院より廁神(勝間田焼)30 体を受注し、納入しました。(竹内)

2 月 全陶展会報第 47 号に、岡山支部支部長の岡本研作氏の寄稿として、勝間田焼の復活に取り組む竹内と奥田の記事が掲載されました。

5 月 文化協会と中国道勝央サービスエリア下りのレストランと協力し、店内の美術展示と勝間田焼展示・販売棚を設置し、開業しました。

5 月 津山工芸展に入選しました。作品は「レトロな三輪車」(奥田)、「蛙文三島鉢」(河野)、「勝間田焼壺」(泉水)、「勝間田焼扁壺」(竹内)、「宇宙の星」(矢野)です。



津山工芸展

9 月 岡山県展に入選しました。作品は「蛙文三島組鉢」(河野)、「勝間田焼 玄武」(竹内)、「街道」(矢野)です。

9 月 街道際のポスターに勝間田焼関係者の写真が掲載されました。

10 月 全陶展に入選しました。作品は「勝間田焼壺」(奥田)と「勝間田焼 棕櫚」(竹内)です。

11 月 文化祭に出展しました。華道嵯峨御流勝央教室に「パルムド カツマダ(竹内)」をご使用いただきました。



2020 年(令和 2 年)の活動

(1)勝間田焼に関する活動

12 月 5 回目の窯焚きと窯出しを行いました。会員が少なくなり、友人や地域の方々に応援を頂きました。【山陽新聞・津山朝日新聞掲載】

応援いただいた方々:梅津、木原、小林、末菅、高橋、鳥屋、水嶋、山本の各氏。



窯詰め(三段目)



窯焚き



窯だし(二段目)



窯出し(三段目)

窯だし→

通年 本年の薪割り等の合同作業は、
約15 回行いました。



(2)その他の関連行事

12 月 勝央サービスエリアにて陶板展を開催しました(勝間田焼同好会)。

2021 年(令和 3 年)の活動

(1)勝間田焼に関する活動

4 月 ノースヴィレッジロードサイドマーケットにて勝間田焼の棚を開業しました。

4 月 勝央町歴史を語る会で「勝間田焼」を発表しました(竹内)。

4・5 月 勝央美術文学館で勝間田焼グループ展を開催しました。【山陽新聞掲載】



勝間田焼グループ展(2021 年 4 月 30 日~5 月 5 日)

11 月 6 回目の窯焚きと窯出しを行いました。今回も多くの方々に応援を頂きました。

応援いただいた方々:梅津、木原、小林、鳥家、水嶋、山本の各氏。【山陽新聞掲載】



← 窯詰め
窯焚き→



窯だし



窯だし

通年 本年の合同作業は、約 15 回行いました。

(2)その他の関連行事

9 月 街道さんぽ(PR 映像)に参加しました(勝間田焼同好会)。

岡山県展に入選しました。作品は「桃太郎」(奥田)、「蛙文三島鉢」(河野)です。

10 月 全陶展に入選しました。作品は「支える」(奥田)と「勝間田焼 森森」(竹内)です。

11 月 文化祭に出展しました(勝間田焼同好会)。

2022 年(令和 4 年)の滑動

(1)勝間田焼に関する活動

10 月 野焼き作品作りの陶芸教室と野焼きを行いました。



野焼き作品作り



野焼き

通年 本年の合同作業は、約 15 回行いました。

(2)その他の関連行事

5 月・ 津山工芸展に入選しました。作品は以下の通りです

「ダルマ自転車」(奥田・無鑑査)、「狛犬」(泉水)、「蛙文三島鉢」(河野)、「勝間田焼
暁の瀬戸」(竹内・審査員)、「格子柄「永遠」」(矢野)



津山芸展

9 月 岡山県展に入選しました。作品は「見つめる」(奥田)、「蛙文三島手付鉢」(河野)、
「菱文様黒灰虎」(矢野)です。

10 月 全陶展に入選しました。作品は「勝間田土格子紋大壺」(奥田)と「勝間田焼 瀬戸
の暁」(竹内)、「鬼・鬼サミット」(矢野)です。

2023 年(令和 5 年)の活動

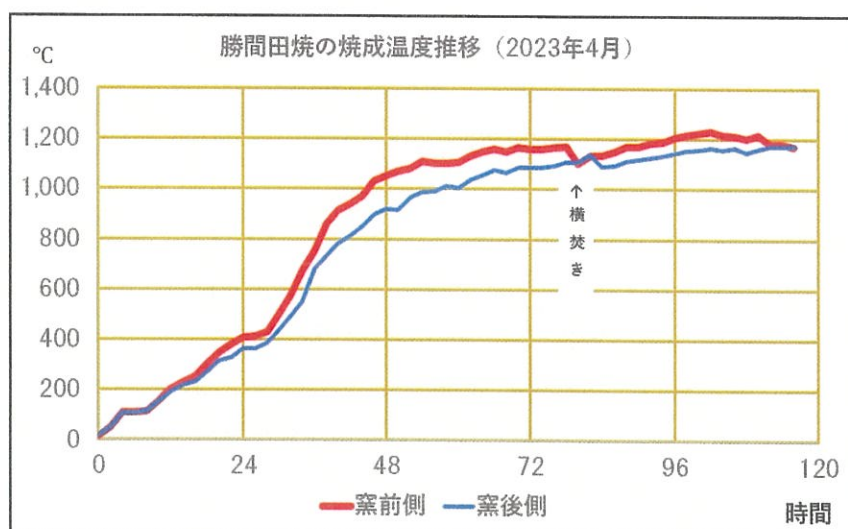
(1)勝間田焼に関する活動

4 月 7 回目の窯焚きと窯出しを行いました。強い還元冷まし焼成により大部分が、青灰色のきれいな作品になりました。今回も多くの方々に応援を頂きました。

応援いただいた方々:木原、鳥家、山本の各氏。



窯詰を終わって



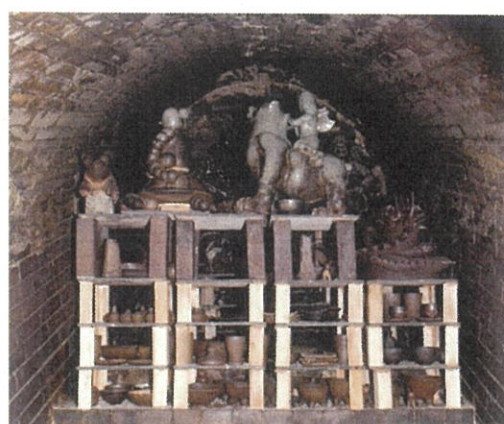
焼成温度グラフ



煙突から出る炎



窯だし(1段目)



窯だし(3段目)



窯だし作品

通年 本年の合同作業は、約15 回行いました。

(2) その他の関連行事

5 月 津山工芸展に入選しました。作品は以下の通りです。

「金太郎」(奥田・無鑑査)、「蛙文三島うつわ」(河野)、「金太郎」(泉水)、勝間田焼扁壺」(竹内・審査員)、雲龍(矢野)

9 月 岡山県展に入選しました。作品は以下の通りです：

「もしも亀が飛べたなら」(奥田)、「蛙文三島手桶水指」(河野)、「こまいぬ」(泉水)、「勝間田焼 浪」(竹内)、「山の主勝竜」(矢野)

10 月 全陶展に入選しました。作品は「つつむ」(奥田)、「トラ・トラ・トラ」(矢野)です。

11 月 文化祭に出展しました(勝間田焼同好会)。

11 月 勝央美術文学館主宰 アートの今・岡山 2023-2024「旅」関連イベントの

「きむらとしろうじんじんさんがやって来る」の協賛イベントに参加しました。

七輪様式の窯で、炭を燃料にドライヤーで風を送って、ぐい呑みなどの焼成を行いました。

(焼成温度は、1250～1300℃)



七輪窯様式の窯→

2024年(令和6年)の活動

(1)勝間田焼に関する活動

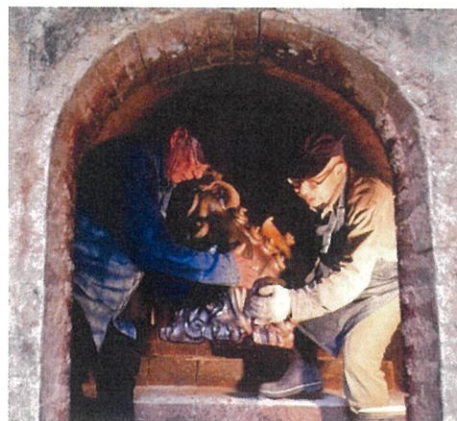
11月 勝間田焼復活会の解散を決定し、青勝窯で最後となる8回目の窯焚きと窯出しを行いました。長年の経験から窯焚きのコツをつかみ、今回の焼成温度は1250℃で、今までより高温で焼成できました。還元焼成と酸化焼成の微妙な闘いあいで、美しい仕上がりとなりました。【山陽新聞掲載】

今回も多くの方々に応援を頂きました。

応援いただいた方々:木原、鳥家、山本、山下の各氏。



窯出し



大物の窯出し



展示即売会



今回の窯焚きメンバー

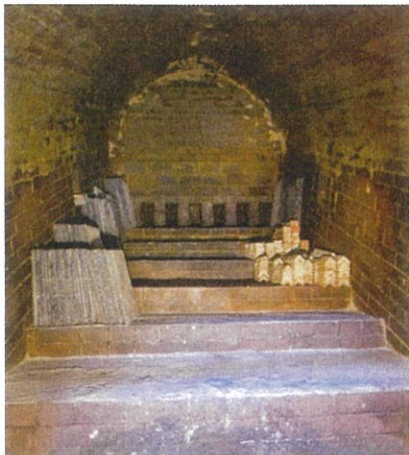


炊き出して休息



山陽新聞に掲載された記事

12 月 勝間田焼復活会の解散を最終決定しました。水嶋町長へこのことを報告し、窯は勝央町で管理してくださることになりました。



整理後の窯内部



整理後の窯場の外観(2024年12月)

通年 本年の合同作業は、約15回行いました。

(2) その他の関連行事

5 月 津山工芸展に入選しました。作品は以下の通りです。

「支える」(奥田・無鑑査)、「蛙文三島鉢」(河野)、「金太郎」(泉水)、「勝間田焼 波」(竹内・審査員)、「格子紋様勝間田甕」(矢野)

9 月 岡山県展に入選しました。作品は以下の通りです。

「何処へ」(奥田)、「勝間田焼 忍野」(竹内)、「天獅子・鏡獅子」(矢野)

10 月 全陶展に入選しました。作品は「象嵌木の葉紋皿」(奥田)、「きもかわいい(ハンザキ)」(矢野)です。

11 月

- ・文化祭に出展しました(勝間田焼同好会)。
- ・「勝間田焼 天神」(竹内)を勝ブランドに申請中です。
- ・旧郡役所に博物館&ギャラリーとして開設の際には、町内メンバーの勝間田焼作品を寄贈したいと考えています。
- ・SNS で勝間田焼の PR を行いました(奥田)。

12 月 「そばカフェ木楽」で勝間田焼の個展を開催しました(矢野)。

4. 勝間田焼の将来

私たちは勝間田焼の狙うべき方向を次のように考えます。

奥田：

「勝間田焼（須恵器）は、備前焼や施釉の陶磁器とは異なり、素朴な焼き物です。この特徴を生かしつつ、現代に通用する形を追求することが重要であると考えます。」

河野：

「勝間田焼が何故衰退してしまったかを考えると、単なる須恵器あるいはその延長では難しいものがあると考えます。したがって、何か付加・変革が必要であると考えます。」

泉水：

「無釉・還元冷まし焼成を保ち、創作陶芸で特異性を出す。即ち彫塑、インテリア、花器などの分野で創造性を発揮する。」

竹内：

「無釉・還元冷まし焼成を保ち、備前焼、立杭焼と差別化する。田底土（酸化鉄 1%）と福吉の白粘土を活かして、練り込み、象嵌、掻き落とし技法を特徴とする。花器、茶器を狙う。」

矢野：

「勝央町民の方々に勝間田焼を知ってもらう機会になったので良かったと思います。勝間田焼を若い方が継承されて、再び窯焚きがされることを望みます。」

5. 会員、広大な支援いただいた方、団体

奥田福泰： 津山市野村、「ギャラリーふう」主宰、多様なジャンルの作品を創作。特に花器・陶彫に注力、信楽焼研鑽。元化学メーカー勤務、津山民芸協会会員。

奥西文寛： 美咲町塩気、津山中央病院勤務、備前焼研鑽。

河野吉雄： 津山市勝間田町、河野美術館、大鉢・皿に注力。埼玉 丸沼陶芸倶楽部（東京芸大工芸科系）にて研鑽、元繊維メーカー勤務。

泉水良通： 勝央町下町川、眞泉窯、大型塑像に注力。勝間田焼きが初手。元中学校美術教師。

竹内眞介： 勝央町下町川、花が岡窯、創作花器に注力。京焼（河井寛次郎系）研鑽、元電機メーカー勤務。

花房文雄： 奈義町豊沢、自家用窯、ギャラリー経営。

万代祐三： 勝央町東吉田、陶芸家。

宮崎 薫： 西栗倉村大茅、「陶」若杉窯（本格的登り窯）。

矢野清和： 勝央町上香山、里山魚陶ギャラリー六清、細工物魚陶に注力。六清窯にて38年間研鑽、元建設会社勤務。

水嶋淳治氏： 勝央町町長、全面的に支援いただいた。

末菅満江氏： 勝央町町議、元議長、窯焚き際には毎回賄など全面的に支援いただいた。

鳥家健二氏： ノースビレッジイチゴ園主、会員級の仕事をいただいた。

的野智士氏： 備前焼タ立受窯、還元冷まし焼成の実地指導をいただいた。

木原康二氏： 陶芸家、窯焚きを毎回のように支援いただいた。

河野枝三子氏： 河野美術館館長、供物、賄など毎回支援いただいた。

石田製材所： 多大の材木を提供いただいた。

アライス： ノースビレッジ使用の便宜、多量の松材をいただいた。

勝央町教育委員会： 勝間田焼出土品、窯跡等提示いただいた。

勝間田焼同好会： 復活会会員と近隣陶芸家の団体、（文化協会所属）、展示会他の協力。

この他、文中に名前を記載した方以外にも、多くの方々にご支援をいただきました。

6. 会員代表作品



「勝間田焼 忍野」
竹内真介



「耳付壺と鉢2種」
河野吉雄



「桃太郎 (トーテムポール)」
奥田福泰



「狛犬」
泉水良通



「星座獅子」
矢野清和

7. 資料

「幻の陶器 勝間田焼」教育委員会編

「勝間田焼復活への道」奥田福泰 著

「勝間田焼資料集」竹内眞介編

8. おわりに

私たちは高齢のため、窯焚きは終了しましたが、窯と建屋は丈夫で、まだ 10 年以上使用できると思います。幸いにも、後を勝央町に管理いただくことになりました。ありがとうございます。若い方で陶芸や勝間田焼に興味のある方は、ぜひ窯を見て、活用の検討をいただきますようお願い致します。

最後に、地域の方々に精神的、物質的に非常に多くのご支援をいただきました。活動の励まし・応援、窯出し時の賞賛・購入、木材・粘土の提供、窯焚きの支援や差し入れなど、数えきれません。本当にありがとうございました。



前列左から 奥田福泰、泉水良通、竹内眞介、矢野清和

後列左から 奥西文寛、河野吉雄 （2018年6月2日撮影）

勝間田焼復活への道 II

著 者：竹内眞介

編 集：奥田福泰

写 真：奥田福泰

発 行：勝間田焼復活会 竹内眞介

岡山県勝田郡勝央町下町川 179

発行日：令和 7 年3月吉日

印 刷：プリントバック株式会社

裏表紙

生 花：嵯峨御流 津山司所長 高木さと甫氏

器：パルム ド カツマダ 竹内眞介

